

◆寄贈書案内

●宮里恭子先生（教育学部教授）より



書名：小児失語症の言語回復：ランドー・クレフナー症候群と自閉症の比較から  
著者：星浩司, 宮里恭子著  
発行：2019年11月 慶應義塾大学出版会

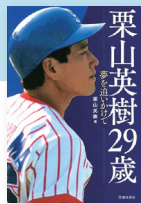
ヒトは言語をどのように獲得し、発達していくのか。“生物言語学の見地から、言語理解と発話のメカニズムを解明し、言語回復への道筋を探る” 専門書

◆図書館スタッフのオススメ本を紹介します

栗山英樹29歳  
夢を追いかけて

発行：2023年5月 池田書店

現役を引退するシーズン前にはじめて書き下ろした書籍が30年ぶりに復刊されました。栗山英樹という人間を形づくった出来事や考えが記されています。原点となる体験が数多く詰まった一冊です。



栗山ノート2  
世界一への軌跡

発行：2023年7月 光文社

11万部のベストセラーとなった『栗山ノート』の続編。WBC日本代表監督に任命されてから優勝するまでの日々を振り返った、激闘の舞台裏が記録されています。前作に続き、偉大な先人の教えがたくさん紹介されています。



◆2023年前半の図書館をめぐる出来事

- 1月 目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL）リプレイス  
大学向け学術情報システム36年ぶりに一新される。停止期間中はご不便をおかけしました。
- 2月 図書館システムリプレイス  
オンプレミス版からクラウド版になり、バージョンアップしてOPAC（蔵書検索）やマイライブラリの機能が増えました。
- 5月 コロナ5類移行によりライブラリーツアー、学外の方の利用を再開しました。
- 7月 機関リポジトリ環境提供サービスJAIRO Cloudのソフトウェア移行  
移行期間の作業停止により、紀要論文の公開をお待ちいただいています。



図書館をめぐる出来事の内、『Summa de arithmetica』の復活については前号に詳細がありますので割愛させていただきました。利用者の方にとっては「何が変わったの?」と思われる出来事でも、館員はあれやこれやと対応を迫られっぱなしです。次号はもっと先生方の著書が多数紹介できますように!

2023(令和5年)10月1日 発行  
編集 図書館だより編集委員会  
発行 白鷗大学総合図書館  
〒323-8586 栃木県小山市駅東通り2-2-2  
ホームページ <https://library.hakuoh.jp>  
印刷 第一印刷株式会社

私の読書体験

経営学部教授

藤井 健



私の初めての読書体験は、幼稚園の時に読んだ『わんぱく王子の大蛇退治』と『うしわか丸』という二冊の絵本でした。わんぱく王子ことスサノオノミコトがヤマタノオロチという怪物を倒す物語はわくわくしました。うしわか丸は天狗に武芸を教わり弁慶という大男を倒す話で、うしわか丸が橋の上を飛び跳ねながら弁慶と闘う場面が印象的でした。

小学校に入学後、図書館でマンガ日本の歴史を読んでいるとその中にスサノオノミコトやうしわか丸こと源義経が登場し、日本神話の神様であったり実在の人物であることを知り、本と本につながりがあること、本を読み重ねることで知識が深まっていくことを知りました。

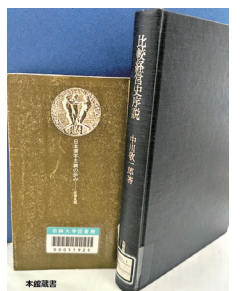
須佐之男命（スサノオノミコト）のお姉さんである天照大神が現在の天皇家の祖先であり、そのことが『古事記』という日本最古の書物に書かれていること、またその本が今に伝わって読むことができることに小学生ながら感動したことを覚えています。源義経の歴史を調べる中で源平合戦、鎌倉幕府の歴史に興味を持ち、歴史全般へ興味も広がりました。

中学生になり『平家物語』を知り、その現代語訳を読んでみるとその中にも源義経が登場し、『平家物語』や『古事記』を原文で読むことができたなら素晴らしいと思いましたが、その方面の勉

強は深まりませんでした。

高校3年生の時に安藤良雄先生の『日本資本主義の歩み』に出会い、文学部でなく経済学部や経営学部でも歴史を学べることを知り、経営学部に進学しました。そこで中川敬一郎先生の『比較経営史序説』に出会い、国、人によって企業経営の在りかたが異なること、日本の企業経営の独特さに触れ、経営学を一生の研究対象にしたいと思いました。中川先生にご指導をいただく機会があり、その温かい人柄、ご指導ぶりから大学教授という職業にあこがれを持ち今に至っています。一つの本が次の本を連れてきてくれ、そのつながりが知識の塊となって皆さんの考え方や生き方に影響を与えていくのだと思います。ぜひ、興味のある本と出会い、それに関連する本を読み続けていってください。

(追記) この原稿を提出した際に、図書館の方が「わんぱく王子の大蛇退治」を探してくださいました。東映アニメーションの長編アニメ映画が基になった絵本でした。絵が独特であったことを記憶しています。私のアニメ好き、アニメ研究はこの時から始まっていたのかもしれない。



# かいじゅうたちのいる<sup>ところ</sup>心奥

～絵本とともに心の成長を振り返る～

教育学部教授  
伊崎 純子

私は美しい絵本の収集やリズムカルな絵本の音読が好きです。カウンセリングの場面でも言葉にならない気持ちを絵に託すことがあります。絵本は大人の心にも響きます。

『かいじゅうたちのいるところ（原題WHERE THE WILD THINGS ARE）』（モーリス・センダック作・じんぐうてるお訳）は、広く知られた絵本です。かつて2年間だけお台場に「ワイルドシングス」名のアトラクションをソニーが造ってしまったくらいです。

「怪獣」の漢字表記だと、私はピグモンやゴジラを思い浮かべます。「怪獣」の初出は中国の秦や漢の時代にかけてまとめられた『山海経』で、妖怪の類を意味したそうです。原題の“WILD THINGS”を直訳すると「荒くれ者」「野生・野性のもの」となります。複数形が示すように、荒れ狂う「かいじゅうたち」が現れ、より恐ろしさが増します。

絵本に出てくる「かいじゅうたち」は「すごいこえで うおーっと ほえて すごい はを がちがち ならして すごい めだまを ぎよるぎよる させて すごい つめを むきだした」りします。主人公のマックスは大人の助けを借りることなくたった一人で「かいじゅうならしの まほう」を使い、「かいじゅうたちの王」になります。

私たちは言葉を持たずに生まれ、言葉にならない自分の不快感を大人に引き受けてもらいながら成長します。助けてくれるはずの大人が当てにならないと、期待外れに怒り、癩癩を起こします。頼りにならない大人が自分を「ちびっこかいじゅう」と呼ぶのはシャットアウトします。そして、密やかに心の中のかいじゅうたちを懐柔する術を探ります。つまり、自分の言葉にならない気持ちを表す「まほう」の「言葉」の獲得です。言葉の力を得て、私たちは大人になりました。

私たちに怖いものを見てみたい気持ちが沸くのも、野性の怖さにどこか懐かしさを感じるためかもしれません。私たちの心奥には飼いやられた複数の「怪獣」が今も住んでいるのでしょうか。書籍を通じて、私たちが魅了する「かいじゅうたち」に再会してみませんか。



# ジャズなの？クラシックなの？

～カプースチンを聴いてみよう！～

教育学部講師  
長崎 結美



ニコライ・カプースチン（1937-2020）という作曲家をご存知でしょうか？ウクライナ生まれの作曲家で、優れたピアニストでもあった彼の音楽は、「ジャズとクラシックの融合」という言葉でしばしば表現されます。

「即興演奏（アドリブ）が主体のジャズに対し、クラシック音楽は楽譜に忠実に弾く」ことは、ジャズとクラシックの違いとしてよく挙げられます。初めてカプースチンの作品を聴いた方はきっと、ジャズの即興演奏のような印象を持たれると思いますが、実は全ての音符が緻密に譜面に書かれており、ある意味彼の作品は非常にクラシック音楽的であると言えます。

独特な魅力を持ち、演奏効果も高い彼の作品は、ここ10数年程でピアニストや聴衆からの人気が高まり、コンサートや動画配信などで多くの演奏を聴くことができるようになってきました。

日本では、ピアニストの川上昌裕がカプースチン作品の普及に大きく貢献したことで知られています。作曲家と直接親交があり、楽譜の校訂編集も手掛けた川上の著書『カプースチン ピアノ音楽の新たな扉を開く』では、カプースチンの音楽的特徴を紐解くだけでなく、気難しい風貌ながらチャーミングな一面もある作曲家の素顔が垣間見えるエピソードもあり、楽しく読み進めること

ができます。ちなみに、川上の弟子であるピアニストの辻井伸行も、最近テレビ番組でカプースチン作品を演奏し話題になっていました。師弟揃って普及に貢献していると言えそうですね。

さて、カプースチン作品の中で最も人気がある曲といえば、『8つの演奏会用エチュード 作品40』でしょう。ジャズのリズムや洒落たハーモニーが散りばめられた曲集の中でも〈第1番「プレリュード」〉は、爽快なリズムと疾走感に溢れており、初めて聴く方にもお勧めの一曲です。

私も次回のコンサートでこのエチュードを演奏したいと考えており、目下練習に励んでいます。カプースチンの魅力が少しでも伝わりますように！

